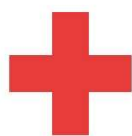


令和5年度
事業報告書



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

埼玉県支部

はじめに

赤十字事業の推進につきましては、赤十字会員、ボランティア、地区・分区関係者をはじめとする多くの皆様からの温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、多くの方が犠牲となり、今なお厳しい環境の中で避難生活を余儀なくされています。埼玉県支部は、災害の発生直後から医療チームを被災地に派遣し、避難所の巡回診療や環境整備、臨時救護所の設置・運営、災害でストレスを受けた方への「こころのケア」などに総力をあげて取り組んでまいりました。昨年10月に実施した埼玉県と近隣1都7県の支部による合同訓練の成果が、このたびの災害活動に確実に生かされたと考えています。

これからも災害対応力を高めるために訓練や研修を重ねるとともに、被災者にお届けする救援物資の整備や子どもたちへの防災教育、救急法や高齢者の避難所生活を支えるための講習など、災害への備えを強化してまいります。

また、県内の赤十字施設においても、お寄せいただいている期待と信頼に応えるために力を尽くしてまいりました。さいたま・小川・深谷の各赤十字病院では地域の医療機関との連携も図りながら、基幹病院として質の高い医療を提供し、特別養護老人ホームでは利用者へのサービスの充実に努めました。血液事業では献血協力者の減少が懸念される中、安全な血液製剤の安定的な確保に向けて啓発活動を積極的に展開しました。

これからも時代の変化に対応しながら、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ため、管内の赤十字施設がワンチームになって様々な事業を着実に進めてまいります。今後も赤十字に対し、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

目 次

事業報告

災害救護活動	1
救急法等の講習	4
赤十字ボランティア	6
青少年赤十字	8
国際活動	10
医療事業	11
社会福祉事業	12
血液事業	13
広報活動	14
看護師の養成	15

資料

令和5年度 歳入歳出決算	16
埼玉県支部について	18
県内赤十字施設一覧	20

※令和5年度における取組実績及び令和6年3月31日時点のデータを基に作成しています。

災害救護活動

令和5年度 歳出額 143,305千円

災害から一人でも多くのいのちを救うために

災害時に備えて常備医療救護班（10 個班・7～9 人/1 個班）要員、血液供給要員及び災害対策本部要員を救護員として 165 人登録し、救護訓練や研修を実施して研鑽に努めました。

その他、救護装備等の充実・整備、被災者への救援物資の配付、弔慰金の支給、義援金の受付など、それぞれの災害の規模や状況に即して幅広い対応を行いました。

① 災害救護活動

梅雨前線による大雨及び台風第2号による災害

令和5年6月2日から関係機関と連絡をとりながら情報収集に当たるとともに、地区・分区を通じて被災者に救援物資を配付しました。

能登半島地震

令和6年1月1日から救護態勢を整え、関係機関と連絡を取りながら情報収集に当たるとともに、以下のとおり救護員等を派遣し、救護活動を行いました。

- ◇埼玉県災害医療コーディネーター（さいたま赤十字病院2人） ※埼玉県庁に派遣
- ◇日赤災害医療コーディネートチーム（さいたま赤十字病院、小川赤十字病院、深谷赤十字病院、特別養護老人ホーム彩華園、埼玉県支部から 計6チーム派遣）
- ◇救護班（さいたま赤十字病院3班、小川赤十字病院3班、深谷赤十字病院2班を派遣。調整員として埼玉県赤十字血液センターから3班に帯同、埼玉県支部から8班に帯同）
- ◇こころのケアチーム（深谷赤十字病院1班）
- ◇DMAT（深谷赤十字病院2チーム）
- ◇JRAT（深谷赤十字病院1人）
- ◇市立輪島病院への看護師の派遣（さいたま赤十字病院4人、深谷赤十字病院1人）
- ◇救護員宿泊用テントの設営・撤収（埼玉県支部3人、救護ボランティア1人）



石川県支部で救護班に活動指示する日赤災害医療コーディネーター（さいたま日赤医師）



避難所で診療する小川日赤救護班



臨時救護所で診療する深谷日赤救護班



避難所で診療するさいたま日赤救護班



災害支援者にリラクゼーションなどのケアを行う深谷日赤こころのケア班



救護員宿泊用テントを設営する支部職員

②訓練・研修会等

いつどこで起こるか分からない災害に備え、関係機関とも連携して迅速・的確な救護活動ができるよう、様々な被災状況を想定した訓練や救護員の資質の向上を図るための研修等に取り組みました。

<訓練>

名称	日程	開催場所等	参加人数等
第44回九都県市合同防災訓練 (埼玉県会場)	8月27日	志木市役所 いろは親水公園	小川日赤救護班 1班 支部職員 4人
国民保護実動訓練	11月17日	加須市 (カインズ大和店)	小川日赤救護班 1班 支部職員 3人
日本赤十字社本社・第2ブロック 支部総合訓練 ※当番支部	10月21日 ~22日	秩父市、横瀬町、 皆野町、長瀬町、 小鹿野町	さいたま日赤救護班 1班 小川日赤救護班 1班 深谷日赤救護班 1班 支部職員 25人 さいたま日赤職員 18人 小川日赤職員 21人 深谷日赤職員 16人 血液センター職員 2人 彩華園職員 4人
帰宅困難者対策訓練	8月4日	さいたまスーパー アリーナ	支部職員 1人 奉仕団員 1人
埼玉版 FEMA 図上訓練	9月13日	埼玉県危機管理 防災センター	支部職員 3人



日本赤十字社本社・第2ブロック支部総合訓練

<研修>

名称	日程	開催場所等	参加人数等
日本赤十字社埼玉県支部 救護班要員研修会	6月28日 ~30日	ハリテイジ美の山 (皆野町)	管内施設職員 70人 支部職員 10人
埼玉県独自 DMAT 養成研修	10月5日 ~6日	埼玉県総合医局機構 地域医療教育センター	管内施設職員・支部職員 計7人
日赤災害医療コーディネーター研修会	7月8日 ~9日 9月23日 ~24日	本社	管内施設職員・支部職員 計6人
救護員としての赤十字看護師研修会	動画視聴	さいたま赤十字病院 小川赤十字病院 深谷赤十字病院	管内施設職員・支部職員 計43人
こころのケア研修会	3月1日 3月15日 3月19日	小川赤十字病院 さいたま赤十字病院 深谷赤十字病院	管内施設職員・支部職員 計51人

③救護装備・資材の整備等

◇地域における災害救護体制の整備を目的に策定した「日本赤十字社埼玉県支部地区・分区救護装備・機器配備要綱（第7次3か年計画：令和4年度～6年度）」に基づき、令和5年度は地区・分区に18品目（合計401品）の資材を配備。

◇県内での火災等小規模災害の被災者に向けた救援物資（布団セット284組、毛布325枚、緊急セット167セット）を地区・分区に配分。また、災害弔慰金として670,000円（29件）を支給。

◇ウクライナから県内に避難された方々に対して、地区・分区を通じて救援物資（布団セット6組、毛布6枚、緊急セット1セット）を提供。

◇令和5年梅雨前線による大雨及び台風第2号の被害により県内で被災された方々に対して、地区・分区を通じて救援物資を配付。（布団セット33組、毛布38枚、緊急セット25セット、感染予防セット5セット）

◇令和6年能登半島地震により県内に避難された方々に対して、地区・分区を通じて救援物資を提供。（布団セット4組、毛布4枚、緊急セット2セット、感染予防セット1セット）

◇13地区・分区に対し赤十字救援車15台を配備。



自動ラップ式簡易トイレ



パーテーション



ポータブル蓄電池・ソーラーパネルセット



地区・分区配備救援車両

④その他の救護活動

各行事における臨時救護要員として、職員とボランティアを派遣しました。

名称	日程	場所	参加人数等
武蔵一宮氷川神社 雑踏救護	12月31日 ～1月3日	武蔵一宮氷川神社 (さいたま市大宮区)	支部職員 8人 管内施設職員(看護師) 6人 ボランティア 20人
臨時救護 (式典、スポーツ大会等)	年間	県内各地	埼玉県ナース赤十字奉仕団 延べ派遣日数 268日 延べ派遣者数 303人 延べ傷病者数 495人

⑤義援金の受付

国内の災害に対する義援金を受け付け、被災地に送金しました。

義援金名	件数	金額
令和5年5月能登地方地震災害義援金	167件	1,081,476円
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	150件	1,116,794円
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	107件	390,085円
令和5年7月7日からの大雨災害義援金	173件	1,086,263円
令和5年台風第6号災害義援金	69件	335,674円
令和5年台風第13号災害義援金	117件	815,793円
令和6年能登半島地震災害義援金	2,287件	279,959,605円
計	3,070件	284,785,690円

救急法等の講習

令和5年度 歳出額 42,805千円

とっさの手当ができる人を一人でも増やしていくために

令和5年度は、感染防止対策を徹底しながら集合型の講習やオンラインによる講習を実施し、一人でも多くの人に技術と知識を習得していただけるよう取り組みました。

①救急法

一次救命処置（心肺蘇生とAEDの使い方）やけがの手当について、企業や団体とも連携しながら講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	内容
基礎講習	50回	1,030人	傷病者の観察の仕方、一次救命処置等救急法の基礎
救急員養成講習	12回	318人	急病の手当、けがの手当、搬送及び救護
短期講習	199回	5,156人	基礎講習及び救急員養成講習の内容の一部



②水上安全法

水の事故から命を守るための講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	内容
救助員Ⅰ養成講習	4回	70人	水の事故防止、泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助及び応急手当
救助員Ⅱ養成講習	1回	18人	海、河川及び湖沼での事故防止、泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助及び応急手当
短期講習	22回	2,125人	救助員Ⅰ養成講習及び救助員Ⅱ養成講習の内容の一部



③健康生活支援講習

家庭における高齢者の健康管理、介護予防、介護の仕方や、災害時の避難生活での高齢者、乳幼児への支援などについて学ぶ講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	内容
支援員養成講習	2回	27人	高齢期における健康の維持と増進、家庭内の看護、自立に向けての介護及び地域の高齢者支援
避難生活支援講習	23回	806人	災害が乳幼児や高齢者に及ぼす影響や避難所生活で気を付けたい症状や支援技術
短期講習	27回	495人	支援員養成講習の内容の一部



④ 幼児安全法

子どもの事故予防や応急手当、看病の仕方等を学ぶ講習を実施しました。

講習会名	回数	受講者数	内容
支援員養成講習	3回	80人	子どもに起こりやすい事故の予防と手当及び病気への対応
短期講習	69回	1,340人	支援員養成講習の内容の一部



⑤ 防災教育事業

防災意識の啓発と災害から身を守るための講習を実施しました。

名称	対象者	回数	参加人数
赤十字防災セミナー	奉仕団員等	20回	542人
	一般市民・町民、その他	16回	761人
指導者養成研修会	奉仕団員・救護ボランティア・支部職員	4回	39人
青少年赤十字防災教育プログラム	児童生徒・教員等	11回	1,151人



⑥ 講習普及を担うボランティアの育成

講習事業の普及推進のため、各奉仕団が主体となり団員を対象に研修を行いました。

名称	回数	参加人数
埼玉県子育て介護赤十字奉仕団 研修会・勉強会	6回	41人
埼玉安全赤十字奉仕団 研修会・勉強会	13回	198人
日赤埼玉水上安全奉仕団 研修会	3回	31人



⑦ 講習指導員の養成

講習普及体制を充実・強化するため、指導員の養成と研修によるスキルアップを図りました。

〈指導員養成講習〉

名称	日程	養成人数
幼児安全法指導員養成講習	11月23日・25日、 12月2日～4日(5日間)	5人

※他県支部主催養成講習にて救急法指導員1人、水上安全法指導員2人を養成

〈指導員研修会〉

名称	開催方法	参加人数
救急法指導員研修会	書面	222人
水上安全法指導員研修会	書面	55人
健康生活支援講習指導員研修会	集合型	34人

〈救急法等指導員在籍状況〉

	赤十字職員	ボランティア	計
救急法指導員	101人	121人	222人
水上安全法指導員	3人	52人	55人
雪上安全法指導員	1人	4人	5人
健康生活支援講習指導員	31人	32人	63人
幼児安全法指導員	37人	58人	95人



健康生活支援講習指導員研修会

赤十字ボランティア

令和5年度 歳出額 28,719千円

地域や赤十字を支える大きな力

令和5年度は、①地域の自助力・共助力の向上に向けた活動 ②地域課題の解決に向けた活動 ③奉仕団間や青少年赤十字との交流、他の団体や組織と連携・協働した活動 の3つを赤十字奉仕団の共通目標に掲げ、ボランティア活動に必要な知識や技術のスキルアップや、活動の推進役・牽引役となるリーダーの養成を図るための各種研修を実施しました。

また、赤十字奉仕団創設75周年を記念し、大会を開催しました。

①奉仕団数及び団員数等

地区別	区分	管内総数	結成地域数	結成率	回数	団員数
地域奉仕団（市・区）※1		49	28	57%	28	3,778人
	（町・村）	23	21	91%	21	1,356人
	小計	72	49	68%	49	5,134人
青年奉仕団※2		-	-	-	3	130人
特殊奉仕団※3		-	-	-	9	905人
救護ボランティア※4		-	-	-	-	58人
合計		72	49	68%	61	6,227人

※1 さいたま市を除く市及びさいたま市内10区の合計

※2 埼玉県青年赤十字奉仕団、共栄大学学生赤十字奉仕団、日本赤十字看護大学さいたま看護学生赤十字奉仕団

※3 埼玉マジック赤十字、埼玉安全、S.R.C.H ボランティア赤十字（※さいたま赤十字病院ボランティア）、埼玉県ナース赤十字、支部援助赤十字、日赤埼玉水上安全、埼玉県青少年赤十字賛助、埼玉県子育て介護（たんぼぼ）、埼玉工業大学赤十字（※大学職員・学生）の各奉仕団

※4 埼玉県支部に登録している個人ボランティア

②主な活動内容

◇地域奉仕団

- 赤十字会員の募集
- 国内義援金・海外救援金の募集
- 防災学習
- 炊き出し等災害時対応訓練
- 献血推進
- 社会福祉施設における活動 等

◇青年奉仕団

- 青少年赤十字高校生対象行事の運営補助
- 手話学習 等

◇特殊奉仕団

- 救急法等の普及・指導
- 青少年赤十字の普及・指導
- その他赤十字事業への協力 等

◇救護ボランティア

- 支部の救護活動の支援
- 救護装備・資器材の技術的点検、整備 等



「埼玉県赤十字奉仕団炊き出しサミット2023」
(深谷市赤十字奉仕団主催)



ライフジャケット体験会で子どもたちを指導する日赤埼玉水上安全奉仕団



「セラピューティック・ケア」を学ぶ埼玉県子育て介護赤十字奉仕団

③赤十字ボランティアを対象とした主な研修

名称	日程	開催場所等	参加人数 (※指導スタッフを除く)
ボランティア基礎研修会	第1回 6月27日	坂戸市文化会館	13人
	第2回 6月30日	埼玉県支部	21人
	第3回 7月6日	彩華園	18人
赤十字奉仕団委員長研修会	9月29日	埼玉県支部	36人
ボランティア・リーダーシップ研修会	第1回 3月6日	埼玉県支部	27人
	第2回 3月7日	埼玉県支部	18人
赤十字ボランティア・リーダー研修会（本社主催） ※地域・青年・特殊奉仕団対象	8月26日～28日	本社	代表 2人
防災ボランティア・リーダー養成研修会（本社主催）	9月2日～3日	オンライン	代表 1人

④埼玉県赤十字奉仕団創設75周年記念大会の開催

赤十字奉仕団創設75周年の節目を迎え、これからの地域社会で求められる赤十字奉仕団の役割を改めて確認するとともに、奉仕団同士の情報交換や交流の機会になるよう記念大会を開催しました。

日 程	令和5年11月15日
会 場	さいたま市文化センター（さいたま市南区）
参加人数	231名（内訳：地域200人・特殊29人・青年2人）
内 容	<p>（1）記念講演</p> <p>①演題：「子どもも大人も居心地の良い学校・家庭・地域社会を目指して」 講師：尾木 直樹 氏（尾木ママ） 教育評論家 法政大学名誉教授</p> <p>②演題：「笑いと健康」（エクササイズ含む） 講師：成木 弘子 氏 日本赤十字看護大学さいたま看護学部教授</p> <p>（2）各奉仕団の活動紹介 活動紹介ポスターおよび手作り品の展示 ※事前に提供があった一部の奉仕団のみの展示</p>



尾木直樹氏の講演



成木弘子氏の講演



手作り品の展示

青少年赤十字

令和5年度 歳出額 37,482円

豊かな心をもった青少年を育てるために

未来を担う青少年が、赤十字精神に基づき「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げ、活動を通して自ら「気づき、考え、実行」できるよう、学びの機会を提供しています。学校教育や幼児教育の中で教員・保育士などが指導者となり活動を展開しました。

①青少年赤十字加盟校の状況

新たに32校が加盟し、652の学校（園）で約22万人のメンバーが活動を行いました。

	幼稚園・保育園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
学校数	125園	286校	172校	66校	3校	652校(園)
メンバー数	15,187人	123,395人	68,571人	13,160人	443人	220,756人

②主な活動内容

◇青少年赤十字メンバー（児童・生徒）の育成

- リーダー養成研修の開催
- 高校生協議会活動への支援（学習会や交流会の開催）
- 姉妹赤十字社ユースメンバーとの交流
- 積極的に活動した児童・生徒の表彰 等

◇青少年赤十字指導者（教員）の育成

- 指導者研修会や研究協議会の開催
- リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成研修会の開催
- 指導情報誌や指導教材の提供 等

◇加盟校（園）の活動強化

- 研究奨励費の交付と研究集録の作成・配付
- 青少年赤十字創設100周年記念誌の作成・配付
- 防災教育や国際教育などの普及促進、出前授業の実施 等

◇加盟促進に向けた取組

- 校長会、県教育委員会及び市町村教育委員会への加盟促進依頼
- 青少年赤十字賛助奉仕団員を中心とした未加盟校への学校訪問
- 教材提供 等



小・中学生リーダーシップ・トレーニング・センター



リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成研修会

<リーダー養成研修>

名 称	日 程	開催場所等	参加人数
入間地区リーダーシップ・トレーニング・センター	8月1日	川越市立川越小学校	児童・生徒 60人 指導者等 30人
比企地区リーダーシップ・トレーニング・センター	7月27日	埼玉県立小川げんきプラザ	児童・生徒 60人 指導者等 39人
大里地区リーダーシップ・トレーニング・センター	8月1日	埼玉県立加須げんきプラザ	児童・生徒 46人 指導者等 24人
北埼玉地区リーダーシップ・トレーニング・センター	8月10日	オンライン	児童・生徒 122人 指導者等 23人

埼玉地区リーダーシップ・ トレーニング・センター	8月7日 ～9日	茨城県立さしま 少年自然の家	児童・生徒 19人 指導者等 17人
小・中学生リーダーシップ・ トレーニング・センター	7月29日 ～31日	埼玉県立加須 げんきプラザ	児童・生徒 34人 指導者等 28人
高校生リーダーシップ・ トレーニング・センター	8月7日 ～9日	埼玉県立長瀬 げんきプラザ	生徒 18人 指導者等 21人
青少年赤十字スタディー・センター (本社主催)	3月22日 ～26日	東照館(山梨県)	生徒 2人

〈青少年赤十字指導者養成研修〉

名 称	日 程	開催場所等	参加人数
青少年赤十字担当指導者研修会	4月19日	オンライン	指導者 29人
青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成研修会	6月24日 ～25日	埼玉県立加須 げんきプラザ	指導者 26人
青少年赤十字指導者研修会	8月22日	埼玉県支部	指導者 25人
こども赤十字指導者研修会	8月23日	埼玉県支部	指導者 15人

※上記指導者には、研修プログラムの指導講師を含む。

〈姉妹赤十字社ユースメンバーや他県のメンバーとの交流〉

名 称	日 程	開催場所等	参加人数
青少年赤十字国際交流事業 (本社主催)	11月23日 ～26日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	生徒 2人
大韓赤十字社京畿道支社 RCY/ 日本赤十字社埼玉県支部 JRC 交流プログラム	1月15日 ～19日	埼玉県支部 さいたま市立美園中学校 埼玉県立岩槻高等学校 他	大韓赤十字社京畿道支社の 参加者 生徒 8人 指導者等 2人 埼玉県支部の参加者 児童・生徒延べ 180人 指導者等延べ 22人 支部職員 7人
群馬県・埼玉県青少年赤十字高校生 交歓研修会	2月4日	日本赤十字社群馬県支部	群馬県：高校生 11人 指導者 3人 青年奉仕団員 2人 支部職員 3人 埼玉県：高校生 10人 指導者 2人 支部職員 2人



大韓赤十字社京畿道支社 RCY/日本赤十字社埼玉県支部 JRC
交流プログラム



群馬県・埼玉県青少年赤十字高校生交歓研修会

国際活動

令和5年度 歳出額 11,524千円

世界中で苦しむ人々のために

191の国と地域に広がる赤十字の世界的ネットワークを活かし、紛争犠牲者や災害被災者の緊急救援、開発途上国への開発協力を行いました。また、海外赤十字社との交流などを通じて国際理解・親善・協力関係を深めました。

① 国際救援・開発協力事業

- ◇北関東四県支部（埼玉・茨城・栃木・群馬）共同支援事業
バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業への資金支援
インドネシア・コミュニティ防災強化事業への資金支援
（四県で各200万円）

- ◇NHK海外たすけあいキャンペーン [12月1日～25日]
（寄付80件・1,155,388円）



バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業

② 国際交流・派遣

- ◇ラオス赤十字社救急法普及支援事業への職員派遣
[2月24日～3月3日、支部職員1名]
- ◇青少年赤十字国際交流事業（本社主催） 〈再掲〉
- ◇大韓赤十字社京畿道支社 RCY / 日本赤十字社埼玉県支部 JRC
交流プログラム[1月15日～19日] 〈再掲〉



ラオスで心肺蘇生の指導を行う支部職員

③ 海外救援金の受付

国外の大規模災害や紛争等に対して、被災国及びその近隣国での救援活動や復興支援のための海外救援金を受け付けました。

救援金名	件数	金額
中東人道危機救援金	16件	64,955円
バングラデシュ南部避難民救援金	51件	125,698円
アフガニスタン人道危機救援金	56件	125,803円
ウクライナ人道危機救援金	509件	19,046,465円
2023年トルコ・シリア地震救援金	306件	8,418,477円
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	58件	328,005円
2023年モロッコ地震救援金	60件	382,437円
2023年リビア洪水救援金	51件	244,881円
2023年アフガニスタン地震救援金	51件	182,893円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	131件	1,075,190円
計	1,289件	29,994,804円



トルコ・シリア地震救援金の募金活動を行う赤十字奉仕団



NHK ラジオ番組で海外たすけあい募金への協力を呼び掛ける支部職員

医療を必要とする人の健康を守るために

高度化、専門化の進む医療環境に対応するため、日本赤十字社では医療事業推進本部制をとり、健全かつ安定的な病院運営の確保に向けてグループ運営を進めています。

県内においては各地域の中核医療機関として、高度医療、救急医療、周産期医療、保健衛生活動の中心的役割を担っているほか、災害時には救護班や災害医療コーディネートチームを被災地へ派遣するなど、赤十字の理念に基づく幅広い医療事業を展開しました。

さいたま赤十字病院 638床（一般632床・精神6床）

高度救命救急センターや隣接する県立小児医療センターと連携して総合周産期母子医療センターを運営するなど、県南地域の中核病院として高度で専門的な医療を提供しています。

常備救護班登録 4班

内訳) 医師8人、看護師長4人、看護師8人、
薬剤師4人、主事12人



小川赤十字病院 302床（一般252床・精神50床※休止中）

県西地域（比企）の中核病院として地域の救急医療に取り組むほか、訪問看護ステーション、精神科デイケアセンターを併設し、地域に根差した医療を担っています。

常備救護班登録 3班

内訳) 医師3人、看護師長3人、看護師6人、
薬剤師3人、主事7人



深谷赤十字病院 474床（一般468床・感染症6床）

県北地域の基幹病院として、ヘリポートを有した第三次救急医療を担う救命救急センターなど高度な救命機能を保持しつつ、骨髄移植や臓器提供施設等の機能を併せ持つ災害拠点病院です。

常備救護班登録 3班

内訳) 医師3人、看護師長3人、看護師6人、
薬剤師3人、主事6人



〈入院外来別延べ患者数〉

	さいたま赤十字病院	小川赤十字病院	深谷赤十字病院
入院患者数	205,645人	70,236人	124,522人
外来患者数	351,900人	121,284人	181,459人

社会福祉事業

令和5年度 歳出額 45,005千円

支援を必要とする人の尊厳を守るために

2つの特別養護老人ホームでは、地域住民やボランティア等の協力を得て施設の運営をしており、災害時の要配慮者支援施設として福祉避難所に指定されています。

また、協力病院と連携した健康管理や理学療法士による身体機能維持に努めながら、利用者一人ひとりの個性を尊重し、自立した生活を営めるよう、質の高いサービス提供を心がけました。

特別養護老人ホーム 小川ひなた荘

隣接する小川赤十字病院との連携により、医療依存度の高い利用者に対しても迅速な対応ができる体制を整え、地域高齢者の福祉向上に努めています。

運営・処遇方針

- ◇利用者の人権の尊重と心の通い合う介護の実践
- ◇利用者、家族への十分な説明と同意によるサービスの提供
- ◇地域に根差した透明性のある施設運営

利用実績

- ◇介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
 - ・・・一日平均 53.2 人（定員 55 人）



餅つき大会の様子（小川ひなた荘）

特別養護老人ホーム 彩華園

平成 17 年に埼玉県から移管を受けて以来、日本赤十字社が運営を行っており、「利己心と闘い、無関心に陥ることなく、人の痛みや苦しみに目を向け、常に想像力をもって行動する」という精神のもと、「認知症ケア」、「看取りケア」、「口腔ケア」の3つのケアを重点項目として取り組んでいます。

運営・処遇方針

- ◇認知症になってもその方らしさが失われることなく生活できるように支援する（「認知症ケア」）
- ◇安らかな最期を迎えられるようにご本人やご家族と一緒に「看取りケア」に取り組む
- ◇できる限り口から美味しく食事がとれるように多職種で「口腔ケア」に取り組む

利用実績

- ◇介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）：
 - 一日平均 83 人（定員 88 人）
- ◇短期入所生活介護事業（ショートステイ）：延べ 3,822 人
- ◇通所介護事業（デイサービス）：延べ 2,919 人
- ◇居宅介護支援事業所：延べ 247 人

腰痛予防等を目的とした研修会（彩華園）
※地域の社会福祉施設の職員も参加

血液事業

令和5年度 歳出額 9,498千円

血液を必要とする患者のもとに 24時間365日必ず届けるために

県内に7か所の献血ルームを開設し、街頭で献血協力の呼びかけを行っているほか、献血バスを各地へ運行し安全性の高い輸血用血液を安定的に確保し、医療機関に供給しています。

急速な少子高齢化により全国的な献血協力者の減少に加え、県内では今後も輸血用血液製剤の需要増加が見込まれる中、行政や地域、関係機関と連携して協力を呼び掛けたほか、各種キャンペーンを積極的に展開し、血液の確保に取り組みました。

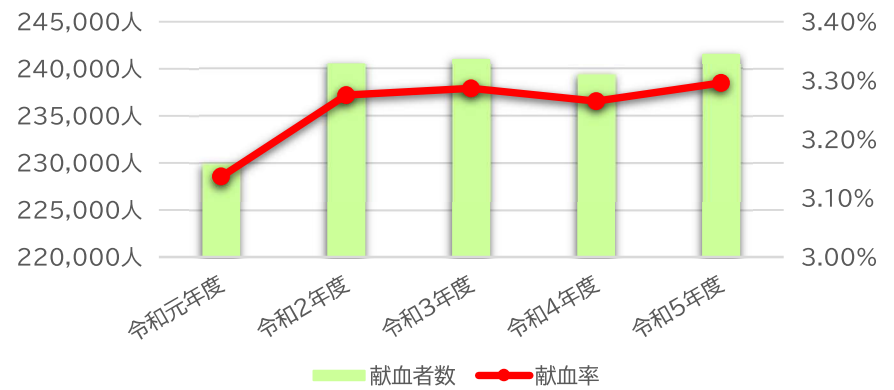


① 献血状況

〈令和5年度献血者数〉

献血種別	献血者数
200mL	12,366人
400mL	165,004人
成分献血	64,121人
計	241,491人

〈献血者数・献血者の推移〉



※献血率(%) = 県内献血者数 / 総務省発表の県人口 × 100

② 実施事業

イベント・キャンペーン

- 新社会人献血キャンペーン [4月～6月]
- 彩の国さいたま「愛の血液助け合い運動」 [7月～8月]
- 彩の国さいたま「第54回愛の血液助け合いの集い」
[8月8日：埼玉会館（さいたま市）]
- 初回献血！お友達＆ご家族紹介キャンペーン [9月～11月]
- アルディージャ応援キャンペーン [9月・10月]
(協力：大宮アルディージャ)
- 埼玉ワイルドナイツウィーク2023 [10月]
(協力：埼玉パナソニックワイルドナイツ)
- クリスマス献血キャンペーン2023 [12月]
(協力：埼玉西武ライオンズ)
- はたちの献血キャンペーン [1月～2月]
- シニア60～64 初回献血キャンペーン [1月～3月]
- 卒業献血キャンペーン [2月～4月]
- REDS 献血キャンペーン2024春 [3月]
(協力：浦和レッドダイヤモンズ)



日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センター 人間を救うのは、人間だ。 urawa. net

広報活動

令和5年度 歳出額 91,742千円

もっと多くの人に赤十字を知っていただくために

県民の皆様の赤十字への理解と協力をいただくため、様々な機会や方法で広報活動を行いました。特に、パブリシティとSNSでの発信を強化し、活動の「今」が伝わる情報発信の充実に努めました。

① イベントの開催・参加等、その他

◇ 赤十字運動月間における街頭PR活動 [5月10日 JR浦和駅東口]
事業紹介パネルやチラシ等を用いて、赤十字運動月間をPRしました。



浦和駅での街頭PR

◇ キッズわくわくワークへの出展 [5月3日 三郷市、5月5日 新座市]
子育て世代への赤十字活動の理解促進を図るため、お仕事体験イベントに参加しました。子供用救護服・ナース服を着て救急法を体験するブースや救護車両と写真撮影できるブース、水難事故防止の啓発ブースを設け、両日あわせて400名を超える親子にお越しいただきました。



救急法を体験する子供たち

◇ レイクタウン防災フェス2023への参加

[5月27日～28日：イオンレイクタウン（越谷市）]

越谷市、イオンレイクタウンなどが主催するレイクタウン防災フェス2023に参加し、はがれにくい絆創膏の貼り方体験や救護車両・救護物資の展示、防災クイズ、赤十字ブローチの作製などを行いました。



赤十字ブローチ製作

◇ Jリーグ「#命つなぐアクション」への参加

[8月6日：埼玉スタジアム2002（さいたま市緑区）]

Jリーグが進める「#命つなぐアクション」に参加しました。このアクションは全国のチームで行われており、当支部は浦和レッズの試合の際に、埼玉スタジアム2002に救急法体験ブースを出展し、多くのサポーターに参加していただきました。



救急法を体験するサポーター

◇ 「防災ワークショップ」への参加 [9月18日：ララガーデン川口（川口市）]

防災月間に合わせて実施された「防災ワークショップ」に参加し、地元の消防や自衛隊、防災士会などと一緒に、防災についての普及啓発を行いました。



避難所の仮想体験

◇ 「いのちを守る体験教室～Join!赤十字～」の開催

[11月12日：イオンモール羽生（羽生市）]

若年層に対する赤十字活動の周知を図るため、埼玉県赤十字血液センターと共同でPRイベントを開催しました。新たな取り組みとして、店舗内にあるAEDを回るクイズラリーを実施したほか、ダンボールベッドなども設置し、多くの来場者に体験いただきました。



AEDクイズラリー

◇大型デジタルサイネージでのPR動画の放映 ※無償掲出

JR大宮駅前の商業施設の大型デジタルサイネージを活用して赤十字運動月間の広報を行いました。また、年末年始には、多くの人出がある武蔵一宮氷川神社に設置された大型ビジョンで、赤十字活動を紹介する動画を放映しました。



元旦の武蔵一宮氷川神社

◇水の事故防止に向けた呼びかけ

毎年ゴールデンウィーク頃から増加する水の事故を防止するため、県及び県警と連携し、それぞれのSNSで一斉に注意喚起を行いました。また、水難事故防止に向けた動画を3本公開していますが、県警の協力のもとで、用水路や川、ため池など身近に潜む水辺の危険ポイントに焦点をあてた動画を新たに制作し、公開しました。



県警と連携した動画の撮影

②テレビ・新聞・ラジオ等による広報

プレスリリースは昨年度より8件多い21件で、多くのメディアに取り上げられました。(テレビ13件、ラジオ2件、新聞21件、ネット媒体5件) このほか、素材の提供、取材や出演の依頼に積極的に対応し、メディアへの露出は全体として74件となりました。



令和6年能登半島地震で活動した救護班へのメディア取材

③ホームページ・SNSによる広報

災害対応や実施事業の報告のほか、身近なところにある赤十字活動をタイムリーに発信するツールとして、ホームページに加えてSNSを積極的に活用しました。Twitter・Instagram・Facebookで情報が届いた人数を示すリーチ数は401,661リーチ(前年度74,266リーチ)で、多くの方に「伝わる広報」ができました。

動画配信サービス「YouTube」についても、救護訓練の様子や暮らしに役立つ講習普及関連の動画などを配信し、累計再生回数13万回を記録しました。

事業報告

令和5年度 歳出額 10,000千円

看護師の養成

救援・救護活動ができる

赤十字看護師を育成するために

日本赤十字看護大学さいたま看護学部(設置:学校法人日本赤十字学園)では、日本赤十字社の使命である救援・救護活動を実効的に展開できる看護師を養成しています。今後の医療環境を見通し、未来に向けてリーダーとしての役割が果たせる人材育成を目指しています。

学部の運営に対して資金援助を行いました。

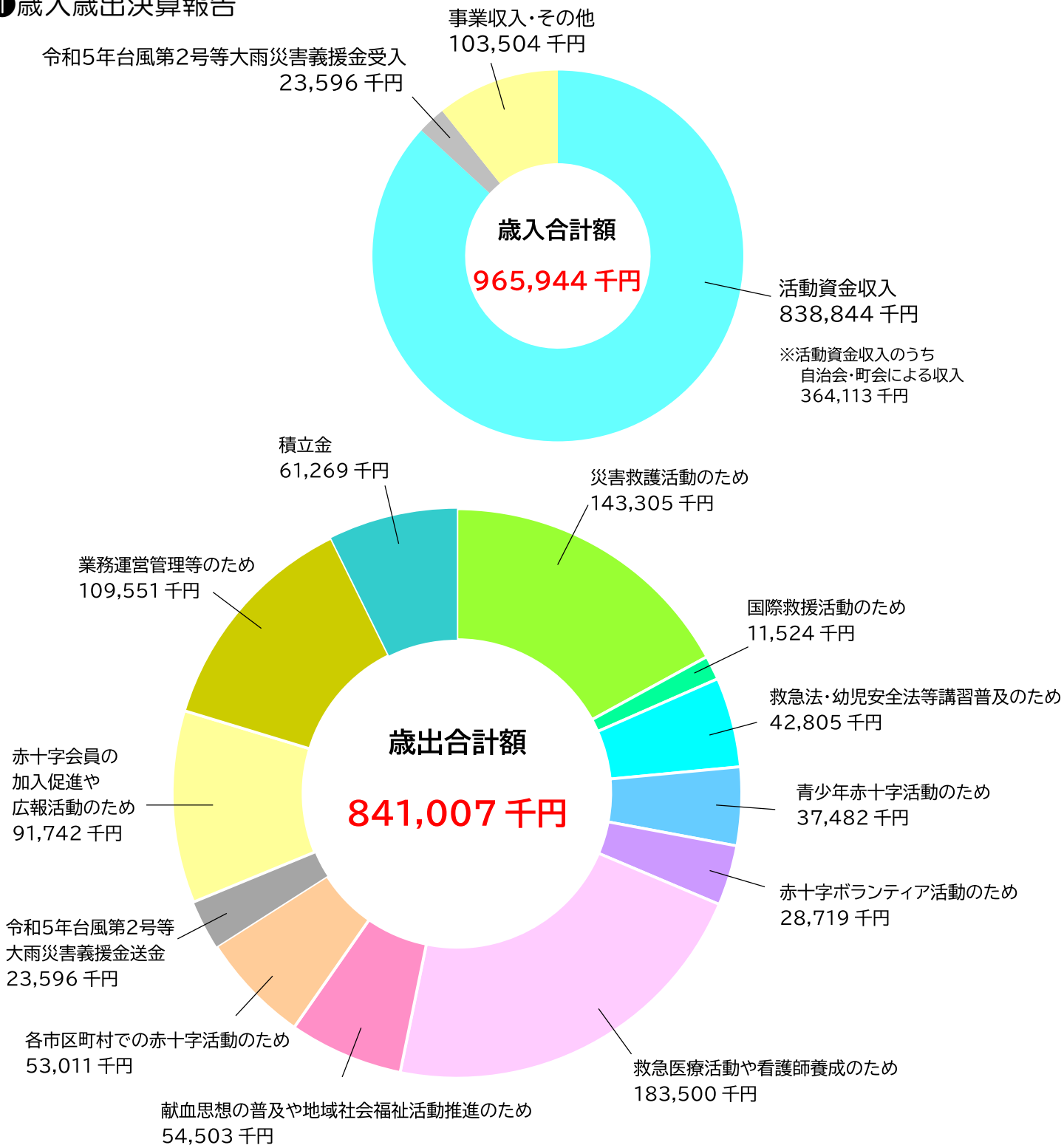


さいたま看護学部第1期生 学位授与式の様子

令和5年度 歳入歳出決算

災害救護をはじめ「人間のいのちと健康、尊厳を守り、苦しんでいる人を救う」ための活動は、赤十字の理念に賛同し、共感し、支援して下さる方々（会員）によって支えられています。

① 歳入歳出決算報告



◇差引額 124,937 千円は次年度に繰り越しました。

◇赤十字病院および社会福祉施設は施設ごと、血液センターは血液事業全体での特別会計のため、この収支報告には含まれていません。

②活動資金実績

目標額		実績額	
558,000,000 円		830,574,800 円※1 〔達成率 148.8%〕	
内訳)		内訳)	
◇地区・分区扱い (市区町村)	390,000,000 円	◇地区・分区扱い※2 (市区町村)	364,113,149 円 〔達成率 93.4%〕
◇個人・団体	126,000,000 円	◇個人・団体	410,874,911 円 〔達成率 326.1%〕
◇法人	42,000,000 円	◇法人	55,586,740 円 〔達成率 132.3%〕

※1 個人住民税控除対象海外救援金を除く

※2 地域（市区町村）の赤十字窓口を通じてご協力いただいた寄付

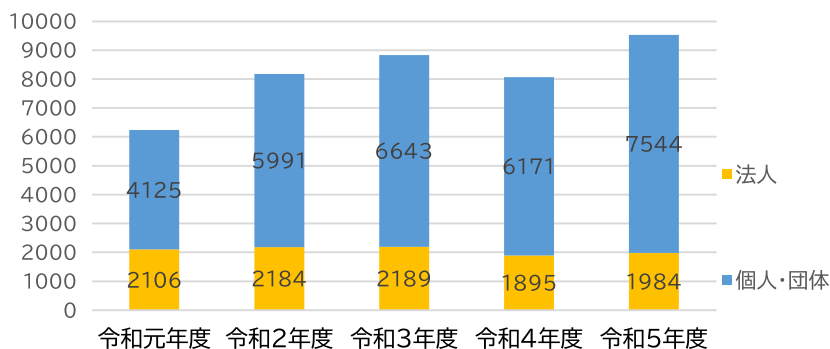
③指定事業活動資金・特定寄付金募集実績（再掲）

募集区分	目標額	実績件数・金額	
個人指定事業 (募集対象：個人)	44,000,000 円 (総務大臣承認に基づく額)	81 件	44,000,000 円 〔達成率 100%〕
法人指定事業 (募集対象：法人)	30,000,000 円 (財務大臣承認に基づく額)	22 件	30,000,000 円 〔達成率 100%〕

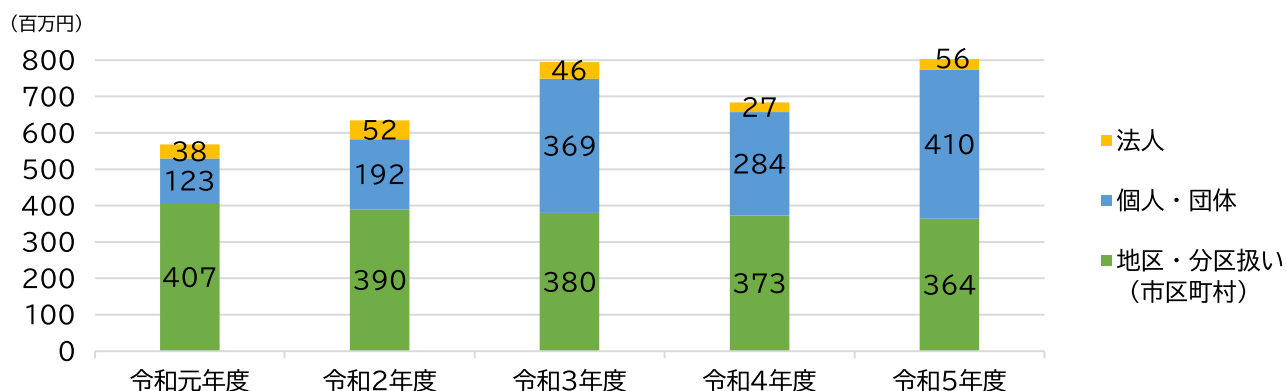
④管内施設への指定寄付金実績（再掲）

施設名	実績件数・金額
さいたま赤十字病院	22 件 114,380,000 円
小川赤十字病院	7 件 1,225,555 円
深谷赤十字病院	4 件 330,000 円
彩華園	6 件 550,000 円
埼玉県赤十字血液センター	1 件 100,000 円

⑤会員数の推移（過去5年間）



⑥活動資金実績の推移



埼玉県支部について

(令和6年3月31日時点)

日本赤十字社（本社：東京都港区）は、人道の理念に基づき、世界各国の赤十字社・赤新月社とともに紛争や災害、病気などで苦しんでいる人々に対する救援活動を行っています。

また、国内でも、地震・水害などによる被災者の救護活動や医療・血液・福祉など、幅広い分野で活動しています。これらの活動をより地域のニーズに合わせて行うために、各都道府県に支部を設置しています。

埼玉県支部の活動はすべて、財政面でご支援いただく赤十字会員や、活動の直接の担い手である赤十字奉仕団をはじめとするボランティア等多くの方々によって支えられており、1887年（明治20年）12月設立以来、活動を続けています。

日本赤十字社埼玉県支部及び管内赤十字施設の現勢

支 部 長	大野 元裕				血液事業	◇血液センター ・埼玉県赤十字血液センター
会 員	個人・団体 7,544人 法人 1,984法人					◇事業所・出張所 2 ・日高事業所 ・熊谷出張所
青少年赤十字	・加盟校(園)652校 ・メンバー220,756人 ・指導者 14,290人					◇献血ルーム 7 ・所沢プロバ通り献血ルーム ・川越クリアモール献血ルーム ・鴻巣献血ルーム ・大宮献血ルーム ウエスト ・越谷レイクタウン献血ルーム ・熊谷駅献血ルーム ・川口駅献血ルーム
	学校区分	加盟校数	メンバー数	指導者数		◇献血者数 ・200mL 12,366人 ・400mL 165,004人 ・成分献血 64,121人 計 241,491人
	幼稚園・保育園	125園	15,187人	2,616人		社会福祉施設
	小学校	286校	123,395人	6,295人		
	中学校	172校	68,571人	4,323人		
	高等学校	66校	13,160人	782人		
特別支援学校	3校	443人	274人			
赤十字ボランティア	・奉仕団数 61団 ・登録者数 6,227人					◇特別養護老人ホーム 2 (総定員 165人) ・小川ひなた荘 特養 55人 ・彩華園 特養 88人 ショートステイ 10人 デイサービス 12人 居宅看護支援
	種別	登録団数	登録者数		職 員 数	
	地域奉仕団	49団	5,134人			
	青年奉仕団	3団	130人			
特殊奉仕団	9団	905人				
救護ボランティア	—	58人				
講習普及事業	《講習実績》				(正職員)	
	講習種別	講習回数	受講者数	登録指導員数	埼玉県支部 24人	
	救急法講習	261回	6,504人	222人	さいたま赤十字病院 1,242人	
	水上安全法講習	27回	2,213人	55人	小川赤十字病院 348人	
	健康生活支援講習	52回	1,328人	63人	深谷赤十字病院 736人	
国際活動	・姉妹赤十字社ユースメンバーとの交流 ・支部取扱海外救援金額 1,289件 29,994,804円				小川ひなた荘 21人	
	・常備救護班 10班 ・無線局 70局 ・救護車両 31台(福祉施設分含む) ・支部取扱国内義援金 3,097件 284,935,509円 ・配分救援物資 901個(布団・毛布・緊急セット・感染予防セット)				彩華園 39人	
災害救護	・常備救護班 10班 ・無線局 70局 ・救護車両 31台(福祉施設分含む) ・支部取扱国内義援金 3,097件 284,935,509円 ・配分救援物資 901個(布団・毛布・緊急セット・感染予防セット)				血液センター 206人	
	医療事業	病院 3施設				
病院名		病床数	入院延べ患者数	外来延べ患者数		
さいたま赤十字病院		638床	205,645人	351,900人		
小川赤十字病院		302床	70,236人	121,284人		
深谷赤十字病院	474床	124,522人	181,459人			

支部役職員

役職名	氏名	主な公職
支部長	大野 元裕	埼玉県知事
副支部長	富岡 勝則	埼玉県市長会会長・朝霞市長
	井上 健次	埼玉県町村会会長・毛呂山町長
	金子 直史	埼玉県福祉部長
監査委員	西島 昭三	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長
	小山 彰	公認会計士
参与	鈴木 康之	埼玉県福祉部福祉政策課長
	播磨 高志	埼玉県福祉部高齢者福祉課長
	山口 達也	埼玉県保健医療部医療整備課長
	岡地 哲也	埼玉県保健医療部薬務課長

本社代議員

役職名	氏名	主な公職
代議員	西島 昭三	元日本赤十字社埼玉県支部副支部長
	田中 憲次郎	会社役員
	関根 正昌	会社役員
	利根 忠博	埼玉県経営者協会 名誉会長
		日本赤十字社理事(R3.4.1~)
	小野寺 貴一	会社役員
	黒瀬 節子	赤十字奉仕団埼玉県支部委員会委員長

評議員

氏名	主な公職	氏名	主な公職
岡田 悟	馬宮地区社会福祉協議会会長	並木 傑	新座市長
山崎 秀雄	さいたま市北区日進地区社会福祉協議会会長	小野 克典	桶川市長
松本 敏雄	さいたま市自治会連合会会長	梅田 修一	久喜市長
村田 博	大砂土東地区社会福祉協議会会長	三宮 幸雄	北本市長
富澤 洋	さいたま市中央区自治会連合会会長	遠藤 雅之	八潮市健康福祉部長
三角 武夫	さいたま市桜区土合第三自治会連合会会長	星野 光弘	富士見市長
石井 桂太郎	さいたま市浦和区自治会連合会副会長	木津 雅晟	三郷市長
細淵 紀雄	さいたま市南区武蔵浦和地区自治会連合会会長	山口 京子	蓮田市長
鈴木 甫	さいたま市緑区尾間木地区自治会連合会会長	石川 清	坂戸市長
三次 宣夫	さいたま市岩槻区自治会連合会会長	木村 純夫	幸手市長
佐藤 敦弘	川越市社会福祉協議会事務局長	齊藤 芳久	鶴ヶ島市長
新井 郁江	川越市福祉部長	谷ヶ崎 照雄	日高市長
堀口 雅弘	熊谷市福祉部長	中原 恵人	吉川市長
坂本 裕一	川口市福祉部長	高畑 博	心じみ野市長
牛田 洋子	元日本赤十字社埼玉県有功会川口市支会監事	藤井 栄一郎	白岡市長
鴨田 和彦	行田市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	大島 清	伊奈町長
北堀 篤	秩父市長	中野 松夫	宮代町社会福祉協議会会長
前田 広子	所沢市福祉部長	窪田 裕之	杉戸町長
岡田 茂穂	会社役員	坂巻 正士	松伏町いきいき福祉課長
新井 重治	飯能市長	林 伊佐雄	三芳町長
福田 英幸	加須市社会福祉協議会常務理事兼事務局長	小峰 孝雄	鳩山町長
木村 登志男	本庄市社会福祉協議会理事	飯島 和夫	川島町長
田嶋 靖洋	東松山市健康福祉部長	大澤 夕キ江	長瀨町長
時田 美野吉	春日部市自治会連合会会長	原田 信次	美里町長
鷹野 勝利	狭山市福祉こども部長	矢部 吉春	寄居町社会福祉協議会常務理事兼事務局長
塚本 恵	羽生市市民福祉部長・羽生市社会福祉協議会常務理事	清水 勇人	さいたま市長
木村 勝美	鴻巣市健康福祉部長	村田 俊彦	団体役員
小島 進	深谷市長	二重作 正次	会社役員
石川 孝之	上尾市社会福祉協議会事務局長	齊之平 伸一	団体役員
坂田 幸夫	草加市健康福祉部長	吉川 尚彦	埼玉県生活協同組合連合会会長理事
小田 大作	越谷市福祉部長	齋木 はな	元 赤十字奉仕団埼玉県支部委員会委員長
杉本 昭彦	越谷市社会福祉協議会会長	高橋 裕一	前 埼玉県青少年赤十字賛助奉仕団委員長
頼高 英雄	蕨市長	田口 誠	会社役員
菅原 文仁	戸田市長	平本 一郎	会社役員
杉島 理一郎	入間市長	長谷 英里子	団体職員
松尾 哲	朝霞市社会福祉協議会会長	上木 雄二	埼玉県社会福祉協議会副会長
中村 修	志木市福祉部長	吉田 秀実	埼玉県民生委員・児童委員協議会事務局長
柴崎 光子	和光市長		

(定数 75人)

県内赤十字施設一覧

支部

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字社埼玉県支部	〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 3-17-1	048-789-7117

赤十字病院

施設名	所在地	電話番号
さいたま赤十字病院	〒330-8553 さいたま市中央区新都心 1-5	048-852-1111
小川赤十字病院	〒355-0397 比企郡小川町小川 1525	0493-72-2333
深谷赤十字病院	〒366-0052 深谷市上柴町西 5-8-1	048-751-1511

社会福祉施設

施設名	所在地	電話番号
特別養護老人ホーム小川ひなた荘	〒355-0321 比企郡小川町小川 1548-1	0493-74-2191
特別養護老人ホーム彩華園	〒360-0004 熊谷市上川上 266	048-524-1391

赤十字血液センター・献血ルーム

施設名	所在地	電話番号
埼玉県赤十字血液センター	〒337-0003 さいたま市見沼区深作 955-1	048-684-1511
日高事業所	〒350-1213 日高市高萩 1370-12	042-985-6111
熊谷出張所	〒360-0806 熊谷市奈良新田 398-1	048-525-1330
所沢プロバ通り献血ルーム	〒359-1123 所沢市日吉町 10-19 Tokorozawa ex 2F	04-2903-9277
川越クレアモール献血ルーム	〒350-1122 川越市脇田町 4-2 ドン・キホーテ川越東口店4F	049-225-8760
鴻巣献血ルーム	〒365-0028 鴻巣市鴻巣 405-4 埼玉県運転免許センター内	048-543-5511
大宮献血ルーム ウエスト	〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町 2-4-1 DOMPARTⅢ 5F・6F	048-658-5757
越谷レイクタウン献血ルーム	〒343-0828 越谷市レイクタウン 3-1-1 イオンレイクタウン mori 1F	048-987-3737
熊谷駅献血ルーム	〒360-0037 熊谷市筑波 2-112 JR 熊谷駅構内	048-525-8802
川口駅献血ルーム	〒332-0017 川口市栄町 3-1-24 川口駅東口ビル 3F	048-223-7661
埼玉製造所 ^{※1}	〒355-0071 東松山市新郷 493-1	0493-24-3111

※1 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センターの施設

看護師等教育施設

施設名	所在地	電話番号
日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 ^{※2}	〒338-0001 さいたま市中央区上落合 8-7-19	048-799-2747

※2 学校法人日本赤十字学園による運営。日本赤十字看護大学の東宮キャンパス

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

令和5年度 事業報告書

〒330-0064
埼玉県さいたま市浦和区岸町 3-17-1
TEL 048-789-7117
FAX 048-834-1520



公式ホームページ
<https://www.jrc.or.jp/chapter/saitama>



公式 facebook
<https://www.facebook.com/redcrosssaitama/>



公式 X (旧 Twitter)
<https://x.com/redcrosssaitama>



公式 Instagram
https://www.instagram.com/redcross_saitama/



公式 YouTube
https://youtube.com/@redcross_saitama